

## 1・6 調査研究に対する外部評価

当所の調査研究に対して、外部からの意見を聞きながら県民ニーズなどに合致した効率的で効果的な研究業務の遂行とその透明性の確保を目的に実施。

年 月	調 査 研 究 課 題	総合評価	コ メ ン ト
21年10月	液体クロマトグラフ/タンデム型質量分析計(LC/MS/MS)を用いた食品中の残留農薬迅速分析法に関する研究	非常に高く評価できる(成果評価)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告書の研究成果の記述では、その価値が一般に伝わらないので、明確にかつ積極的に県民に知らせるよういろいろな場で広報すると共により詳しい成果を報告書に記載すること。</li> <li>・研究成果の価値をより一層高める必要がある中で、論文文化して学術誌に投稿するなど専門家にも知らせる必要がある。</li> <li>・この分析法開発は特許申請は難しいと思われるが、非常に価値の高い研究成果であるため、もう少しきちんとまとめて世の中に広めて欲しい。</li> </ul>
21年10月	熊本県における日本紅斑熱の疫学調査	非常に高く評価できる(計画評価)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常に緊急性があり、価値あるいい研究である。地域社会の健康や生活を考えるうえで罹患原因等を是非解明して欲しい。</li> <li>・県民の健康を守るため、なぜ、地域に偏在して流行しているのかを早く解明する必要がある、そのためには研究対象をダニだけでなく、移動性のある媒介動物についても実施する必要がある。</li> <li>・日本紅斑熱は、主として九州の限定地域で発生している。そのため、九州全体での協力体制づくりを図り、さらに南九州の宮崎県や鹿児島県との共同研究について、積極的に実施する必要がある。</li> </ul>

※成果評価：調査研究の事業終了後に、研究目的の達成状況、行政施策等への寄与度及び県民ニーズへの波及等の評価

※計画評価：計画段階において、研究の目的、研究の体制及び内容等の評価